

# あおもり 花き経営事例集

～花き経営の発展のために～



令和4年2月

青森県農林水産部農産園芸課

## ～はじめに～

本県産の花きは、夏季冷涼な気候や健康な土など恵まれた環境で育ち、生産者の技術力も高いことから、「色鮮やかで日持ちが良い花」との評価が得られており、令和2年の作付面積は約87ヘクタール、出荷額は約12億円となっています。

県では、令和5年度に花き出荷額を19億円とする目標を設定した「青森県花き振興方策」(平成31年3月)に基づき、県産花きの重要品目であるトルコギキョウ、キク、地域振興品目であるアルストロメリア、カンパニュラ、ヒマワリ、デルフィニウム、ケイオウザクラを中心に、生産振興を図っており、令和元年度からは、本県に優位性のある夏秋期生産の強化や担い手の育成と確保を図るとともに、県産花きの認知度向上を目的とした「青森花き産地強化推進事業」を展開しているところです。

具体的には、産地拡大に向けてセミナーを開催しているほか、県内花き市場や生花店団体等、花き関係者により構成される「青森県花のくにづくり推進協議会」と連携・協力しながら、フラワーフェスティバルの開催や、小学生等を対象としたフラワーアレンジメント教室等の花育活動の実施、県産花きを花材としたフラワーアレンジメントの販売を行うあおもりの花・特得ウィークなどを通じて、県産花きの消費拡大に努めています。

この度、花き栽培の導入による経営発展や生産力強化を図るため、県内各地域の花きを含む複合経営の事例を紹介する、啓発資料を作成しました。

生産者の皆様には本資料を参考にし、花き栽培を経営の中に組み込むことや生産の工夫などに役立て、今後の農業経営の強化や安定化につなげていただくことを期待しています。

令和4年2月

青森県農林水産部

農産園芸課長 内山真人



# ～目次～

## 東青地域

カーネーションを主体とした多品目生産の確立…………… 1

## 中南地域

アルストロメリアの周年出荷と水稻、野菜の複合経営を実践…………… 3

りんごの栽培技術を応用して冬場のケイオウザクラを導入…………… 5

## 三八地域

高い技術力と土づくりで実践する花きと野菜の複合経営…………… 7

キクの長期出荷で「いしがみの花」ブランドを確立…………… 9

## 西北地域

キク・水稻・野菜を組み合わせたハウスの効率活用……………11

多品目・複数作型の組み合わせによる長期安定出荷を実践……………13

## 上北地域

水田転作に適したりんどうで花き単一経営を実践……………15

## ● 東青地域

# カーネーションを主体とした 多品目生産の確立



### 〈事例紹介者〉

氏 名：名古屋 正浩（42歳）

市町村：青森市

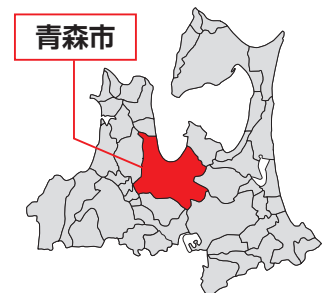
家族構成：本人、母、姉（2名）、祖母

認定等：青森県青年農業士（H25認定）

### ＊ 地域の状況

青森市は都市近郊における園芸農業が盛んな地域で、古くから野菜や多種・多様な花きが生産されていた。

近年はトルコギキョウとキク類の作付けが多いが、かつては県内を代表するカーネーション産地であった。



### ＊ 経営の概要

経営：カーネーション（13.9a）、トルコギキョウ（2.3a）、デルフィニウム（2.3a）、ヒマワリ（2.3a）、その他花き（4.6a）、水稻（50a）の複合経営

施設等：ハウス 11棟（約25.4a）

機械：トラクター 1台、田植機 1台、コンバイン 1台  
動力噴霧機 1台、管理機 1台

労働力：家族2名（本人、母）

年間出荷本数：カーネーション 約10万本、トルコギキョウ 約3千本

デルフィニウム 約5千本、ヒマワリ 約5千本、その他 約5万本

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
カーネーション (13.9a)	← 挿し芽 →	← 定植 →			← 収穫 →					
トルコギキョウ (2.3a)	● は種 ●			← 定植 →			← 収穫 →			
デルフィニウム (2.3a)			● は種 ●	← 定植 →		← 収穫 →				
ヒマワリ (2.3a)		● は種 ●		← 収穫 →						



## ＊ 経営の特徴

### ■ 多品目生産の確立

カーネーションを主力品目として、お盆出荷の後作にはキンギョソウや葉ボタンを作付けするなど、施設の利用率向上に努めている。また、デルフィニウムやスターチスなどの長期出荷が可能な宿根草も組み込んでいる。

### ■ 消費動向を踏まえた作付品目の検討

消費者からは多種・多様な品目や品種が求められていることから、市場と相談して常に新しい情報を取り入れつつ、作付品目を検討している。

## ＊ 農家からのコメント

### ■ 多品目生産について

加温しなくても12月まで採花できる品目もあり、施設の有効利用にもつながります。特に、採花期間の長い宿根草を導入することで、施設の利用率はさらに向上します。

### ■ 新規就農者へ

初期投資は、高品質生産を目指すうえで欠かせないものです。また、どのような品目・品種が良いかは常に変動するため、市場と相談して新しい情報を取り入れることを心がけてほしいです。



カーネーションのほ場



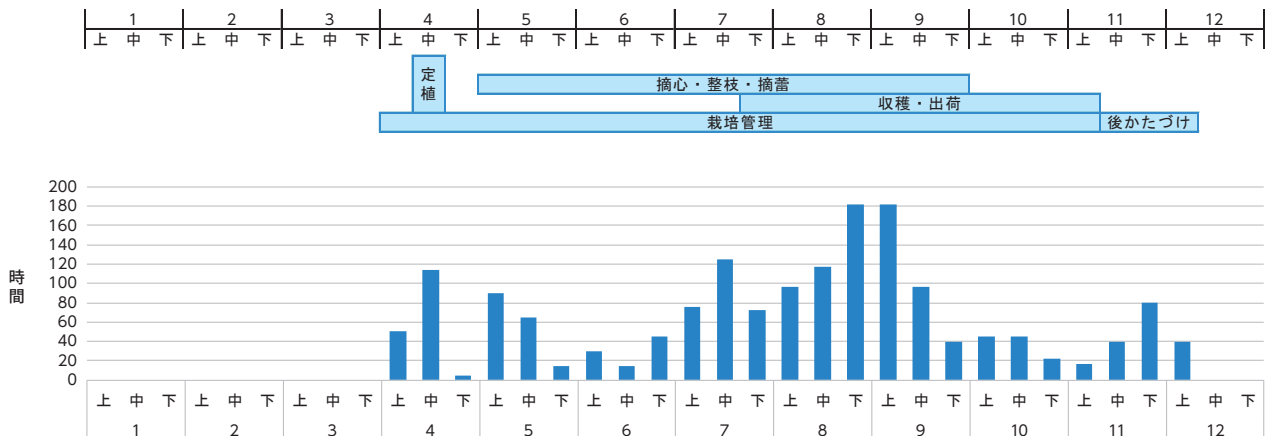
キンギョソウのほ場

カーネーションの経営収支 (10a当たり、千円)

粗収益	3,800
経営費	2,981
内訳	
種 苗 費	1,480
肥 料 費	38
農 業 薬 剤 費	61
光 熱 動 力 費	39
諸 材 料 費	112
建 物 費	258
農 機 具 費	24
流 通 経 費	969
所 得	820
所得率	22%

主要作目の技術・経営指標 (平成27年9月) より

表. カーネーションの10a当たりの労働時間



(主要作目の技術・経営指標 (平成27年9月) より)

## ● 中南地域

# アルストロメリアの周年出荷と 水稲、野菜の複合経営を実践



### 〈事例紹介者〉

氏 名：古川 智英 (40 歳)

市 町 村：藤崎町

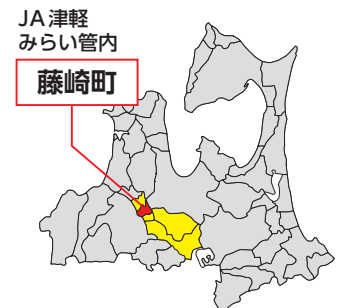
家族構成：本人、父、母

認 定 等：家族経営協定

### ＊ 地域の状況

藤崎町は津軽平野のほぼ中央に位置しており、平坦で日当たりが良く、にんにくやりんご、水稲の栽培が盛んである。また、県内随一のアルストロメリアの産地であり、周年で出荷されている。

JA 津軽みらいの中で、出荷本数が一番多い品目はアルストロメリアであり、過半数を占めている。



### ＊ 経営の概要

経 営：アルストロメリア (7.9a)、水稲・飼料用米 (12ha)、にんにく (119a)、夏秋トマト (13.2a) の複合経営

施 設 等：ハウス 10 棟 (21.1a)

機 械：トラクター 3 台、田植機 1 台、コンバイン 1 台、ブームスプレーヤ (共同利用) 1 台

労 働 力：家族 3 名 (本人、父、母)、

臨時雇用：にんにく植付け時期 5～6 名、掘取り時期 10 名、水稲育苗時期 2 名

年間出荷本数：アルストロメリア 約 2 万本程度 (年間 700 箱 (1 箱 30 本入り))

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
アルストロメリア (7.9a)				← 定植 →								
水稲・飼料用米 (12ha)				← 育苗 →	← 田植 →				← 収穫 →			
にんにく (119a)			越冬				← 収穫 乾燥 →		← 植付 萌芽 →			越冬
夏秋トマト (13.2a)			← は種 →	← 育苗 →	← 定植 →				← 収穫 →			



## ＊ 経営の特徴

### ■ アルストロメリアの位置付け

主力品目は水稲とにんにく、水稲育苗後のハウスを利用した夏秋トマトであるが、①トマトよりも耐寒性がある、②冬期のハウス内温度も5℃あれば良い、③他作物と作業が競合しないなどの理由から、冬場の品目としてアルストロメリアを導入している。なお、本来出荷量が一番多い季咲きの時期である5月は田植え作業と重なるため、出荷調整を行っている。

### ■ アルストロメリアの特徴

宿根草で、一度定植すると4年間同じ株で栽培可能である。品種は数多くあり、契約更新する品種もあれば、新たに導入する品種もある。

### ■ 季節毎の栽培管理方法

夏場は夏秋トマトとの作業が競合しないよう、温度管理作業が簡易な寒冷紗と換気扇を活用している。冬場（11月後半～3月末頃）は暖房機を使用し、ハウス内温度は5℃前後で管理している。

## ＊ 農家からのコメント

### ■ アルストロメリアについて

他品目に比べると種苗費などの初期投資は多いが、毎年植え替える必要はなく、周年出荷できるので、長期的にみれば良い品目です。

### ■ 新規就農者へ

アルストロメリアは、初期投資が多く敷居が高く見えるが、栽培しやすい品目であるためオススメしたいです。ぜひ、アルストロメリア生産者が増えてほしいと思います。



夏秋トマトのハウス



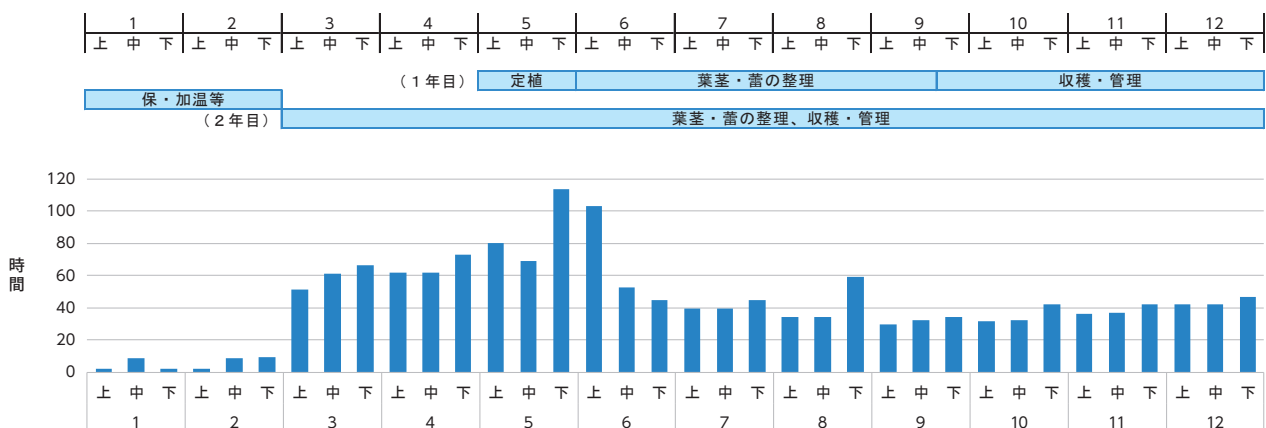
アルストロメリアのハウス

アルストロメリアの経営収支（10a当たり、千円）

粗収益	10,660
経営費	6,536
内訳	
種苗費	1,950
肥料費	79
農業薬剤費	77
光熱動力費	167
諸材料費	174
建物費	397
農機具費	72
流通経費	3,620
所得	4,124
所得率	39%

主要作目の技術・経営指標（平成27年9月）より

表. アルストロメリアの10a当たりの労働時間



（主要作目の技術・経営指標（平成27年9月）より）

## ● 中南地域

# りんごの栽培技術を応用して 冬場のケイオウザクラを導入



### 〈事例紹介者〉

氏 名：山形 正人（63歳）  
家族構成：本人、妻、息子、娘

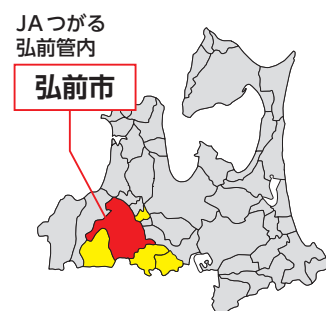
市町村：弘前市  
認定等：つがる弘前農協花き部会長、認定農業者

### ＊ 地域の状況

中南地域はりんご栽培が盛んな地域である。

JA つがる弘前では、25年以上前から生産者の冬場の所得確保等を目指して、りんごの栽培技術が応用できるケイオウザクラの栽培に取り組み始めた。

弘前市は秋冬の気温が低いため、ケイオウザクラの開花条件が揃いやすく、花弁も美しいピンク色になりやすいため、栽培適地である。



### ＊ 経営の概要

経 営：ケイオウザクラ（35a）、りんご等（325a）、水稻（50a）の複合経営

機 械：4駆トラック、除雪機、乗用草刈機、トラクター、スプレーヤ、  
フォークリフト、（田植機・コンバインは友人と共同利用）

労 働 力：家族3名（本人、妻、息子）、臨時雇用2名（9～11月）、  
アルバイト2名（土日や週3日程度）

年間出荷本数：ケイオウザクラ約2～5千本（目標3千本）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ケイオウザクラ (35a)	出荷・調整			定植・支柱立て	※定植してから3～4年は株養成を行い、 4～5年目からは収穫する						収穫	
りんご (300a)		整枝・剪定		受粉	摘果				収穫			
水稻 (50a)					田植 ※苗は、購入苗を使用				収穫			



## ＊ 経営の特徴

### ■ ケイオウザクラの位置付け

りんごとももを主力として、冬期の収入源として導入している。

### ■ ケイオウザクラの特徴

病害虫に強く、栽培管理も他品目よりも容易である。また、一度定植すると4～5年目から十数年以上の長期に渡って収穫でき、経済性が良い補完品目である。

季咲は春先だが、促成処理により開花を早めることで、年末年始のイベントや卒業式などの物日を目指した出荷も可能である。

### ■ 冬場の作業

畑が雪深くなる前に収穫し、その後、出荷までブルーシートで覆い、雪中に保管する管理を行っておき、その後の農閑期に自分のペースで出荷・調製している。

## ＊ 農家からのコメント

### ■ ケイオウザクラについて

導入前は冬場にアルバイトをしており、1日中拘束されるため、家の用事ができず不満に思っていました。導入後は、冬場に自分のペースで作業ができ、助かっています。

### ■ 新規就農者へ

農業は他の職業よりもダメだということはありません。自分でやった結果が目に見えて返ってきます。親が生産している品目に執着しないで、様々な可能性を自分で追求してほしいです。併せて、時代に合った柔軟な考え方・やり方を見つけて実行してほしいです。



11月下旬のケイオウザクラ



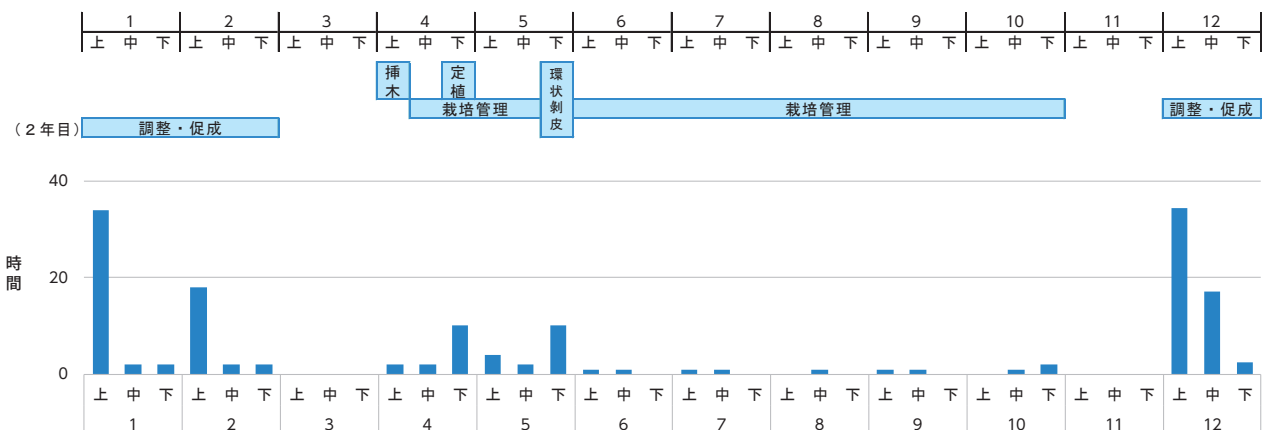
調製済みのケイオウザクラ

ケイオウザクラの経営収支（10a当たり、千円）

粗収益	210
経営費	141
内訳	
種 苗 費	0
肥 料 費	14
農 業 薬 剤 費	7
光 熱 動 力 費	12
諸 材 料 費	2
建 物 費	2
農 機 具 費	8
流 通 経 費	97
所 得	69
所得率	33%

主要作目の技術・経営指標（平成27年9月）より  
注）数値は小数点以下を四捨五入しているため、表の値が一致しない場合がある

表. ケイオウザクラの10a当たりの労働時間



（主要作目の技術・経営指標（平成27年9月）より）

## ●三八地域

# 高い技術力と土づくりで実践する 花きと野菜の複合経営

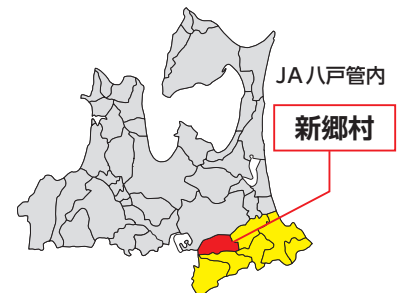


### 〈事例紹介者〉

氏名：荻沢 功 (62歳) 市町村：新郷村 家族構成：本人、妻、父、母  
認定等：八戸農協花き部会長、あおもり土づくりの匠 (H27 認定)

### ＊地域の状況

新郷村は、青森県の中でも夏季冷涼な地域に位置するため、昼夜の寒暖差が大きく、特に夏場における花きの高品質生産に適している。



### ＊経営の概要

経営：トルコギキョウ (20a)、カンパニュラ (3a)、  
にんにく (50a)、ほうれんそう (9a) の複合経営  
施設等：施設 18 棟 (50a)、露地 50a  
機械：暖房機 5 台、軽トラック等 3 台、トラクター 3 台、動力噴霧機 1 台、  
(農協花き部会五戸支部所有の蒸気土壌消毒機 2 台も活用)  
労働力：家族 4 名 (本人、妻、父、母)、繁忙期のみパート延べ 30 名  
年間出荷本数：トルコギキョウ 約 5 万本、カンパニュラ 1 万本  
にんにく 4 t、寒締めほうれんそう 1.2 t

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
トルコギキョウ (20a)	夏秋出し	は種		定植				収穫					
	秋出し		は種		定植				収穫				
	越冬 夏出し						収穫		は種	定植			
カンパニュラ (3a)	越冬			収穫				は種	は種	定植			
にんにく (50a)	越冬					収穫 乾燥				植付			
ほうれんそう (9a)	寒締め	収穫								は種			



## ＊ 経営の特徴

### ■ 高品質生産への取組と地域への波及

花きは自家育苗した苗を定植するほか、新品種の特性をいち早く把握することで、高品質生産につなげるなど非常に高い技術力を有している。また、地域の生産者に栽培技術や土づくりに関する技術を普及するなど、リーダー的存在である。

### ■ 土づくりへのこだわり

畜産農家と連携し、牛ふん主体の完熟堆肥を使用するなど土づくりにこだわっている。冬期には寒締めほうれんそうを栽培し、塩類集積の予防と施設の有効利用を図っている。

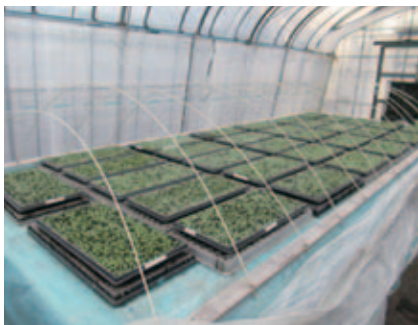
## ＊ 農家からのコメント

### ■ 花き栽培について

作物は土で作るもの。花であっても同様に、土を大事にして栽培しています。一生懸命、いい花を作ろうと日々頑張っています。

### ■ 新規就農者へ

手を掛け育てた花が美しく開花した時の喜びは、それまでの努力が報われる瞬間です。皆さんもその気持ちを味わってみませんか。



トルコギキョウの育苗



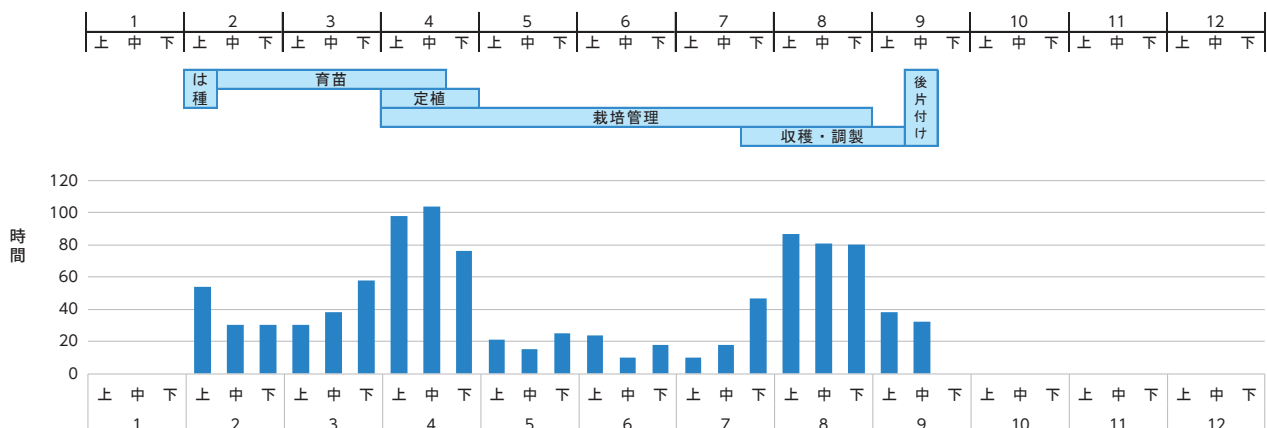
施用前の自家製堆肥

トルコギキョウの経営収支 (10a当たり、千円)

粗収益	3,930
経営費	1,620
内訳	
種 苗 費	168
肥 料 費	36
農 業 薬 剤 費	29
光 熱 動 力 費	45
諸 材 料 費	71
建 物 費	257
農 機 具 費	14
流 通 経 費	1,000
所 得	2,310
所得率	59%

主要作目の技術・経営指標 (平成27年9月) より

表. トルコギキョウの10a当たりの労働時間



(主要作目の技術・経営指標 (平成27年9月) より)





## ＊ 経営の特徴

### ■ 独自ブランドの確立と高い技術力

平成6年から独自ブランド「いしがみの花」で地元市場に出荷しており、条件の厳しい年末出荷に取り組み、約7か月という長期出荷を行うなど、高い技術力を有している。

また、冬期はハウス内の除塩対策のために小松菜を導入している。

### ■ 特徴的な取組

本人と妻との共同申請で認定農業者に認定されたほか、家族経営協定を締結し、子育て等に参加しやすい勤務体系を組んでいる。

野菜の知識を深め、魅力や価値を伝えるため、野菜ソムリエの資格を取得している。

## ＊ 農家からのコメント

### ■ 花き栽培について

猛暑、長雨、台風、大雪などの自然災害や害虫、病気への対策など大変なこともあるが、自分でプランを立てて行動し、結果が自分に返ってくることにやりがいを感じています。

花で世界を笑顔に変えたいと常に考えており、花と緑に関わるこの仕事を通じて八戸市を元気にしていきたいと思っています。

### ■ 新規就農者へ

日々の生活に彩りが出る花の栽培に魅力を感じています。

皆さんも規模の大小にかかわらず、経営に花を取り入れてみませんか。



輪ギク栽培の様子



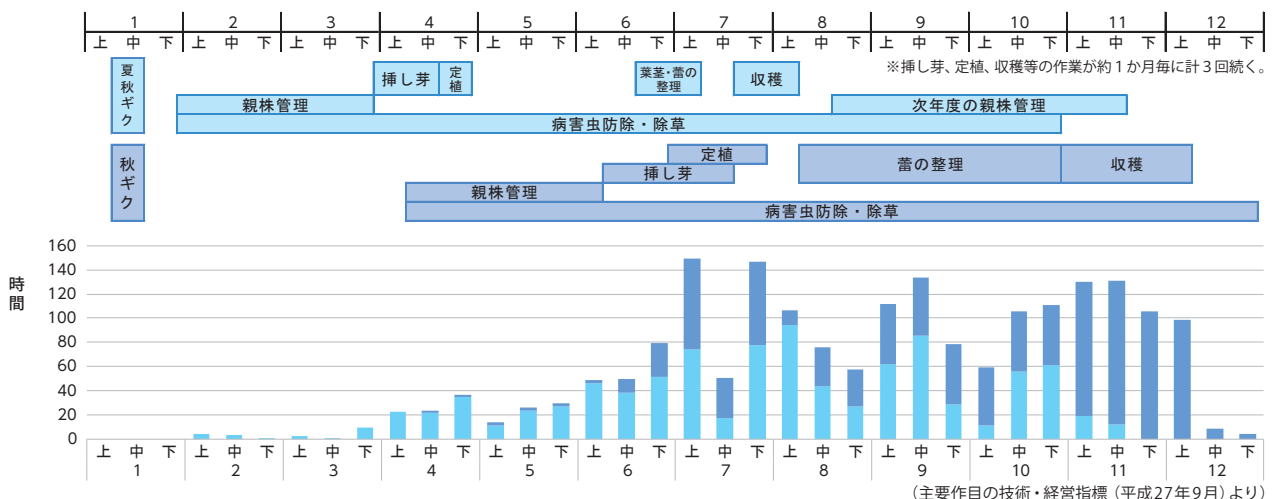
スプレーギク栽培の様子

夏秋ギクの経営収支（10a当たり、千円）

粗収益	2,520
経営費	1,427
内訳	
種 苗 費	210
肥 料 費	48
農 業 薬 剤 費	122
光 熱 動 力 費	29
諸 材 料 費	142
建 物 費	258
農 機 具 費	21
流 通 経 費	597
所 得	1,093
所得率	43%

主要作目の技術・経営指標（平成27年9月）より

表・夏秋ギク（電照・シェード）の10a当たりの労働時間



## ● 西北地域

# キク・水稻・野菜を組み合わせた ハウスの効率活用



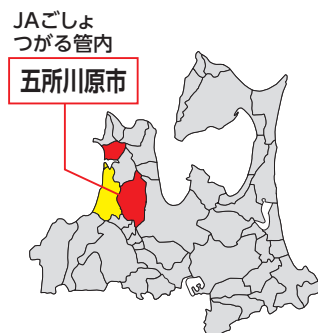
### 〈事例紹介者〉

氏名：長尾 憲 (39歳) 市町村：五所川原市 家族構成：本人、妻、父、母、祖母  
 認定等：青森県青年農業士 (H28 認定)、ごしょつがる農協花き部会 部会長  
 ごしょつがる農協青年部 副会長

### ＊ 地域の状況

平成3年に五所川原市農協花き部会が結成され、その後、平成21年に農協合併に伴い、「ごしょつがる農協花き部会」へ名称を変更した。「雪華美人」というブランド名で5～12月までの白輪ギクの継続的な出荷に取り組んでいる。

部会では、毎月の現地検討会の開催や、オオタバコガの発生予察をもとにした防除体系の確立など高品質・安定生産を心がけている。



### ＊ 経営の概要

経営：輪ギク (40a)、葉菜類 (38a)、水稻・飼料用米 (30ha) の複合経営  
 施設等：ビニールハウス 40a (20棟)  
 機械：トラクター 3台、コンバイン 1台、動噴機 4台、薬剤散布用ドローン 1台、  
 田植機 1台、キク選花機 1台、米乾燥機 3台、米播種機 1台  
 労働力：家族3名 (本人、父、母)、パート2～3名  
 年間出荷本数：輪ギク 16万本、ほうれんそう 5.7t、主食用米 8.4t、飼料用米 9.8t

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
輪ギク (40a)	岩の白扇 (7.6a)			← 定植 →				← 収穫 →					
	精の一世 (21.8a)					← 定植 →			← 収穫 →				
	その他 (10.6a)												
葉菜類 (38a)	← 収穫 →									● は種 ●		← 収穫 →	
水稻・飼料用米 (30ha)			← 育苗 →			← 田植 →				← 収穫 →			



## ＊ 経営の特徴

### ■ 親子2代で挑む花き栽培

元々は父の信彦氏が水稲や花き、野菜を組み合わせた複合経営を行っていたが、息子の憲氏が一部を引き継ぎ、現在では共同で作業をしている。

### ■ ハウスの効率的な利用による経営の安定化

輪ギクを主体とした経営で、前後作に水稲育苗やほうれんそう等の葉物の作付によりハウスの効率的な利用に努めている。

### ■ 土づくりへの取組

生育を確認しながら施肥量の調整や深耕によりハウス内の塩類集積を防ぐことを心がけるなど、土づくりに取り組んでいる。

## ＊ 農家からのコメント

### ■ 輪ギクについて

単価が安いと思われがちですが、他の花きに比べて面積当たりの収量が多く、高品質なものを適期に出荷できれば、決して悪い品目ではありません。

### ■ 新規就農者へ

ごしょつがる農協花き部会では、新規就農者にトレーナーを任命するなど、経営が安定するためのサポートを行っています。

もっと花き部会員を増やしたいと思っているので、農業に興味のある人を募集しています！



輪ギク定植直後の様子



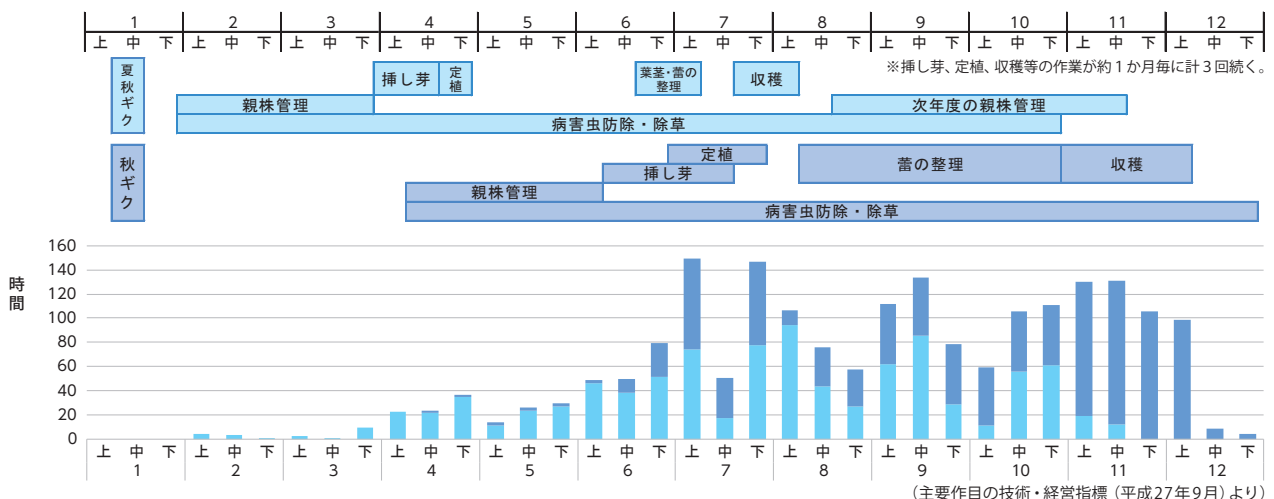
輪ギク栽培の様子

夏秋ギクの経営収支 (10a当たり、千円)

粗収益	2,520
経営費	1,427
内訳	
種 苗 費	210
肥 料 費	48
農 業 薬 剤 費	122
光 熱 動 力 費	29
諸 材 料 費	142
建 物 費	258
農 機 具 費	21
流 通 経 費	597
所 得	1,093
所得率	43%

主要作目の技術・経営指標 (平成27年9月) より

表. 夏秋ギク (電照・シェード) の10a当たりの労働時間



## ● 西北地域

# 多品目・複数作型の組み合わせによる 長期安定出荷を実践



### 〈事例紹介者〉

氏名：渋谷 宗弘 (36歳)

市町村：つがる市

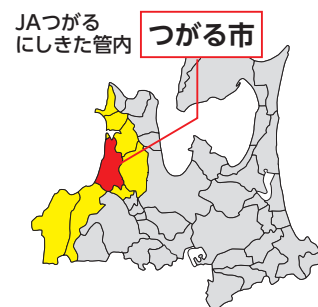
家族構成：本人、父、母

認定等：つがるにしきた農協花き部会理事

### ＊ 地域の状況

つがる市は、トルコギキョウを主体とした花き産地で、越冬栽培と水稻育苗ハウスを活用した抑制栽培等の作型を組合せた6～11月までの長期出荷を行っている。また、補完品目として、ヒマワリや葉ボタン、ストック等の作付けにより塩類集積や連作障害の回避を図っている。

花き団体では平成3年に旧稲垣農協で結成された花き部会を前身としたつがるにしきた農協つがる花き部会が盛んに活動している。



### ＊ 経営の概要

経営：トルコギキョウ (31a)、デルフィニウム (5a)、葉ボタン (3a)、  
水稻 (3.6ha)、ブロッコリー (50a)、スイートコーン (30a) の複合経営

施設等：簡易ビニールハウス 44a (23棟)

機械：田植機 1台、コンバイン 1台、トラクター 3台、動力噴霧機 1台、管理機 1台

労働力：家族 3名 (本人、父、母)、パート 2名

年間出荷本数：トルコギキョウ 8万本、デルフィニウム 7千本

主食用米 21.6t、ブロッコリー 4.5t、スイートコーン 3.2t

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
トルコギキョウ (31a)	越冬栽培 (6.6a)						← 収穫 →		● は種 ●		← 定植 →		
	4月定植 (7.3a)	● は種 ●			← 定植 →			← 収穫 →					● は種 ●
	秋出し		● は種 ●			← 定植 →				← 収穫 →			
デルフィニウム (5a)				← 定植 →						← 収穫 →			
葉ボタン (3a)								← 定植 →					← 収穫 →
ブロッコリー (50a)						● は種 ●	← 定植 →			← 収穫 →			
スイートコーン (30a)					● は種 ●					← 収穫 →			



## ＊ 経営の特徴

### ■ 家族内での役割分担

父の忠男氏が水稲・野菜・花きの複合経営を始め、現在は宗弘氏が花きを担当している。

### ■ 消費動向に併せた作付の検討

トルコギキョウを主体として、県産業技術センター育成品種のデルフィニウムやヒマワリ、葉ボタン等の多品目を複数の作型で組み合わせ、効率的にハウスを活用し、年間を通じた長期安定出荷を実現している。

## ＊ 農家からのコメント

### ■ 花き栽培について

軽労働で、服を汚さずに作業できることが魅力の1つだと思います。  
また、長期的な出荷ができれば、経営も十分に安定します。

### ■ 新規就農者へ

これから花き栽培を始める人は設備投資をしっかりとやることをおすすめします。



葉ボタンの出荷調製



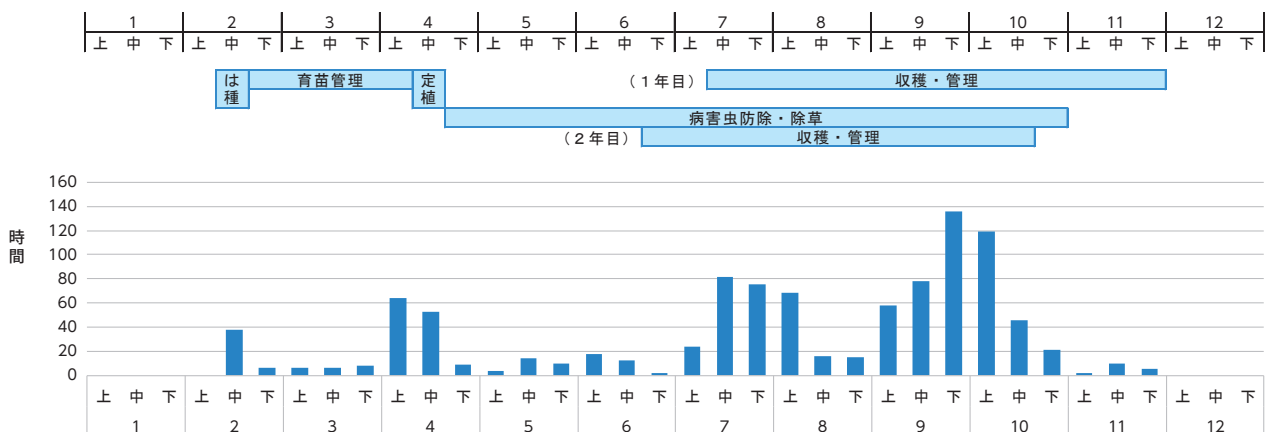
デルフィニウム  
県産業技術センター育成品種「ブルースピア」

デルフィニウムの経営収支 (10a当たり、千円)

粗収益	2,850
経営費	1,616
内訳	
種 苗 費	58
肥 料 費	32
農 業 薬 剤 費	99
光 熱 動 力 費	68
諸 材 料 費	226
建 物 費	259
農 機 具 費	33
流 通 経 費	841
所 得	1,234
所得率	43%

主要作目の技術・経営指標 (平成27年9月) より

表. デルフィニウムの10a当たりの労働時間



(主要作目の技術・経営指標 (平成27年9月) より)

## ● 上北地域

# 水田転作に適したりんどうで 花き単一経営を実践



### 〈事例紹介者〉

氏名：田中 勝一（71歳）  
家族構成：本人、妻、息子夫婦

市町村：七戸町

### ＊ 地域の状況

七戸町では、元々数名の生産者がりんどうを作付けしていたが、平成4年に新たに8名が栽培を開始したことで地域の関心が急速に高まり、さらに、平成7年には旧七戸町農業協同組合に花き部会が設立され、りんどう栽培が七戸町の冷涼な気候や、水田転作作物として適したことから、りんどうの産地形成が図られた。

JA十和田  
おいらせ管内

七戸町



### ＊ 経営の概要

経営：りんどう（26a）単一経営

施設等：26a

品目・作型：りんどう・露地栽培

機械：トラクタ1台、動力噴霧機1台

労働力：家族2名（本人・妻）、臨時雇用2～3名

年間出荷本数：りんどう 9万7千本（令和2年度実績）

		3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
りんどう (26a)	ながの2号 (7月出荷：1.6a)		定植		株仕立て		収穫		
	しなの2号 (8月出荷：14.4a)		定植		株仕立て		収穫		
	しなの3号 (9月出荷：10.0a)		定植		株仕立て			収穫	

※定植株は6～10年据置栽培。株は1株あたり10本程度に整理する。



## ＊ 経営の特徴

### ■ りんどう導入までの経緯

七戸町で作付けが拡大し、旧七戸町農協でも部会が設立されたことから田中氏の関心も高まり、平成13年頃に水田転作作物として導入した。令和2年までは、水稻(90a)とりんどう(26a)を組み合わせた複合経営も行っていたが、令和3年からは単一経営に変更した。

### ■ 地域を支える花き生産者

りんどうは全量農協に出荷しており、十和田おいらせ農協花き振興会の中でも出荷量が多く、地域の花き生産を支えている。

## ＊ 農家からのコメント

### ■ りんどうについて

品種選定により、開花調節によらない物日出荷が可能で、収入が確保できます。忙しい時期が手作業での除草や株の仕立てなどに限られているため水稻との複合経営に適しています。

### ■ 新規就農者へ

地域のりんどう生産者は少ないですが、やる気がある新規参加者を歓迎します。



収穫作業の様子



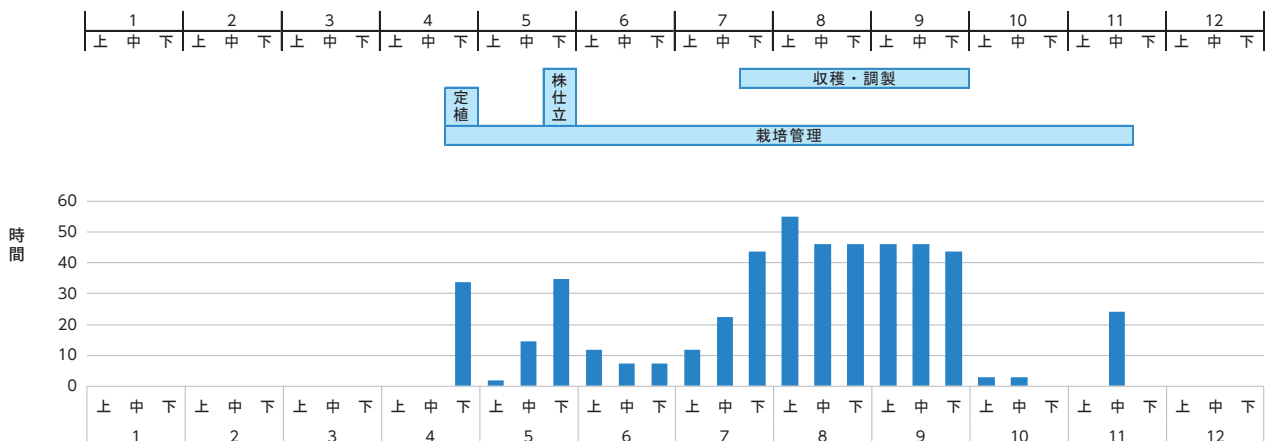
ハウス内で出荷調製

りんどうの経営収支(10a当たり、千円)

粗収益	1,610
経営費	696
内訳	
種 苗 費	96
肥 料 費	18
農 業 薬 剤 費	120
光 熱 動 力 費	20
諸 材 料 費	61
建 物 費	2
農 機 具 費	15
流 通 経 費	364
所 得	914
所得率	57%

主要作目の技術・経営指標(平成27年9月)より

表. りんどうの10a当たりの労働時間



(主要作目の技術・経営指標(平成27年9月)より)



**【花き栽培に関する問い合わせ先】**

- 青森県農林水産部農産園芸課 野菜・花き振興グループ  
TEL：017-734-9485
- 各地域県民局地域農林水産部
  - 東青 TEL：017-734-9965 中南 TEL：0172-33-2903
  - 三八 TEL：0178-27-4444 西北 TEL：0173-35-5729
  - 上北 TEL：0176-23-4281 下北 TEL：0175-22-2685
- (地独)青森県産業技術センター農林総合研究所 花き・園芸部  
TEL：0172-52-4341